

題材 吉田川

1. 題材について

吉田川は黒川郡の真ん中を東西に流れ、黒川の田んぼのイネをみのらせてくれている。

2. 宮城県の立体模型図を見せる

これは宮城県の立体模型図です。

立体だから高い土地は高く低い土地平地は低くつくってあります。

さわってみてください。

でこぼこだ。山は高い 平地が低い まわりは山で高い

黒川郡はどこかな。

黒川郡はひっこんでいるところが多い。黒川の真ん中はひっこんでいる。

黒川のまわりは低い山だ。黒川は低い山でかこまれている。

3. 吉田川と黒川郡

1) 吉田川が黒川の田んぼをつくった

みんなが今勉強しているのは何という学校かな。そうです。黒川夏の学校です。ここにきている児童のみなさんは黒川郡に住んでいます。先生の半分くらいは黒川郡に住んでいてと思います。私永沢義人も黒川郡富谷村志戸田三ヶ森1に生まれ今もそこに住んでいるのです。

黒川郡です。黒川郡は今から2、000年もまえから吉田川の水を使ってイネを栽培していたのです。

吉田川は黒川郡を西の奥羽山脈から東の石巻湾まで流れているです。

黒川郡に降った雨水のほとんどはこの吉田川に注ぎ込むのです。黒川郡の各家庭の使った水も吉田川に流れ込むのです。国道4号線の宮城交通の泉営業所のところに水をまいたら仙台市の水は七北田川に流れ、黒川郡にまいた水は吉田川に流れるのです。

黒川郡のまわりの山や土地の土安永黒川郡に降った雨で吉田川に流れて、洪水や普通の雨でくだかれて流された土や砂がたまって平地になったのです。それがいまの黒川の田んぼなのです。

今、吉田から野蒜まで車で走っていくとイネの緑の葉がずっと続いて見ることができます。まもなく黄金の稲穂が見られることだと思います。

この大衡・大和・富谷・大郷と続く見事な田んぼは2千年も前から黒川に降った水で育てられ、黒川の土地の人々によって耕され、栽培されてきたのです。

そして何千年でこのような立派な田んぼができあがったのです。

私はこの黒川の平地を黒川平野と呼びたいのです。

この黒川平野を作ったのは吉田川です。吉田川と黒川のお百姓さんがこの美田をつくったのです。

2. 地図について

1) 地図は

国土地理院の五万分の一の地形図を使います。

関山峠 と 吉岡 と 松島 です。

加藤さんが菅原さん提供された大和町の地図があるから使いませんかという話がありましたが、私は今まで地図学習には国土地理院の地図がいちばんだと言っていたのです。折角の好意を無視してすみませんが今回の授業には国土地理院の5万分の1地図を使わせていただきます。

2) 地図塗りは

この授業は吉田川とその支流を青いペンで塗っていくことです。

3) 吉田川と鳴瀬川の関係について

鳴瀬川は吉田の升沢を流れている荒川が色麻にはいり花川となり加美町で鳴瀬川となり、志田郡の鹿島台で黒川に近づきます。上流は升沢ですから黒川郡ですが色麻での花川になるのですからですから加美郡の鳴瀬川となり、志田郡の鳴瀬川です。この水が黒川に流れていけば田植えの水不足もかなり緩和されるだろうと思います。でも大水のときは大変なことになることでしょう。

鳴瀬川は加美町から三本木町鳴瀬町と流れてきて吉田川と合流するようですが、今は合流していません。河口でちょっと合流しているように見えますが吉田川は吉田川で野蒜の海へと流れているのです。これは水害を少なくするというので工事をして鳴瀬川と吉田川は河口まで分離されて流れているのです。

4) 川の下を川が流れる

吉田川に鶴田川がぶつかったときに、吉田川の川底をU字がたに水路をくりそこを鶴田川の水を流したのです。

川をサイホン式につくってあるというので有名なつくりです。

3. 黒川郡の吉田川のおもなこと

宮城県黒川郡社会科研究部編集 わたしたちの郷土史年表から

西歴 743 天平14 このころまでに黒川郡が設置される

830	天長	7	宮床に信楽寺たてられる。
905	延喜	2	このころ黒川郡に「新田郷」「駅屋郷」（うまやごう）「白川郷」のみつつ野村があった。
1265	文永	2	吉田に長福寺たてられる。
1472	文明	2	黒川氏居城を蒜袋から下草鶴巢に移す。
1486	文明	18	落合報恩寺に姫宮神社がつくられる。
1585	天正	13	大和町吉田八志田の人右馬助（うまのすけ）八志田堰（やしだせき）をつくる。
1590	天正	18	黒川郡に秀吉の検地がおこなわれる。
1591		19	黒川郡伊達政宗の領地になる。
1715	正徳	5	黒川郡凶作
1766	明和	3	このころ郡内でせいちゃさかんになる。
1783	天明	3	この年大飢饉餓死者多数 天明の大飢饉
1804	文化	1	この年吉田川・善川で洪水で水害
1807	文化	4	この年から品井沼潜穴の大改修はじめる。
1813	文化	10	凶作
1828	文政	11	善川吉田川洪水
1833	天保	4	善川・吉田川大洪水 大ききん
1834	天保	5	大飢饉 餓死者多数
1836	天保	7	善川・吉田川洪水
1837	天保	4	吉田川・善川大水害 大凶作
1838	天保	8	養蚕はじまる。
1842	天保	13	気候不順で39万石減収
1843	天保	14	気候不順で48万石減収 文屋三吉善川に堤防を築く。
1844	弘化	1	凶作
1845	弘化	2	凶作 日照りで68万石減収
1860	万延	1	この頃吉田村の馬丈夫で有名
1866	慶応	2	水害で不作
1869	明治	2	黒川郡凶作

4. 吉田川

黒川郡を西の奥羽山脈から東の石巻湾（野蒜）ませ東西に流れている川です。

ひとつの吉田川が黒川郡の西の山から野蒜の海にそそいでいるのです。

今日はこの青い色鉛筆で 吉田川を みなもとから野蒜の海までたちおっていきます。

富谷町・大和町・大衡村・大郷町の4つの町と村に降った雨の大部分が吉田川

に 流れこんでいるのです。

黒川の農民はこの吉田川の水でしろかきをし、田植えをし、イネを育て、生活をしてきたのです。

5. 今日の授業のおよそ

今日の授業について

1) 黒川郡と吉田川についての話し合い

今日は5万分の1の地図の関山峠・吉岡・松島の地図を使って吉田川のみなもとから、川下の野蒜の河口までをたどります。

2) 赤と青の色鉛筆で地図を塗ります。色鉛筆をくばります。

青鉛筆では

吉田川を本流から支流までをなるべく丁寧にぬってください。

あとで**吉田川の姿**がよくわかるようにぬってください。

地図1部に4人(鉛筆4本)ですからグループ4人です。自分のすきなところをどんどんぬってください。

失敗したところをけさなくてもいいです。

青色鉛筆で吉田川をみなもとから下流にたどっていきながら、川の流

れによく注意ながら青色を塗っていきます

地図の青い線に合わせて

赤鉛筆では

ア 川の兩岸のこと

イ 川はば がせまいとか広いとか

ウ 川のそばの大きいたてもの

私のいってる学校 お寺 神社 郵便局 役場 警察署 公民館 など

地図に印刷してあるものは印刷した字に赤まるをつけます。

エ 川の近くの山の山頂のしるし

オ 私の家 私のいえの田んぼ

カ とにかく何でもいいですから地図を見て気のついたことをことを書いてください。

3) 地図塗りをする

ア みなもと から 国道4合線と交わる高田橋まで
吉田川のみなもとをさがす。

関山峠の地図の右のはじめのほうで(東)のところで
桑沼の右で黒森の左上のところで吉田川と書いてある

その吉田川が二つに分かれて上流に行く。より上流がみなもと。

ここが吉田川のみなもと

吉田川になった谷川が嘉大神ダムに流れこみます。

嘉大神ダムから

人の住んでいる地区をながれます。

沢渡 八志田 割前 八合田 反町 清水 高田 志戸田 舞野

八志田には1585年に作られた八志田堰があります。

八志田堰の水は吉田の田んぼをうるおしてきました。

志戸田は永沢さんの家があります。

志戸田には吉田川から水を流れるようにして、行神社の下を穴を掘った志戸田あなぐらがあります。志戸田・蒜袋・高田の灌漑用水です。

吉田川のみなもとから 国道4号線と交わる高田橋まで

川の広さ 川の兩岸の変化をしらべましょう。

イ 国道4号線高田橋から もとの粕川小学校まで

舞野 上ひわだ 下ひわだ 三が内

吉田川は前半は松島街道（松島吉岡間の道路）とほとんど平行して流れている。吉田川の堤防のすぐわきを道路が通っている。

吉田川の南には大和町鶴巢の田んぼ

北には大和町落合の田んぼがひろがっている。

落合橋・悟溪寺橋がかかっている南北の交通の便になっている。

落合と粕川のさかいに粕川大堰があります。

大郷の灌漑用水です。

ウ 粕川小学校から東北本線の鉄橋まで

川の兩岸には大水になってもこわれのないような高い丈夫な堤防が築かれている。

大郷町の美田がつづいている。

粕川大橋 大郷大橋 品井沼大橋 と

田の大規模化の作業で大郷町内の橋や道路も整備された。

6. 鳴瀬川と吉田川は石巻湾まで合流しない

二子屋黒森のところで鳴瀬側と吉田川は近くなり、合流しそうになります。

地図の松島でそこを確かめてみましょう。

でも合流はしないのです。

海岸まで 鳴瀬川 と 吉田川の間には 堤防があるのです。

堤防で 鳴瀬川 と 吉田川を分離して 野蒜の海に流れるようにしているのです。

その堤防を意識して吉田川のみを塗ってください。

7. 吉田川の支流のいろぬり

吉田川と合流している川を吉田川の支流といいます。

- 1) 大衡の善川 牛野ダムから流れてくる
善川にはどんな川が合流しているかな。
- 2) 富谷の西川
西川にはどんな川が合流しているかな、
- 3) 宮床から富谷の竹林川
- 4) 味明川

自分ひとりでひとつの支流を選んで ふたりでひとつの支流でもいいです。

青鉛筆で支流の色塗りをしましょう。

鶴田川羽吉だかわの支流かな。

鶴田川が吉田川とぶつかったところでなくなり
向かい側から高城川がはじまるのです。

鶴田川の水はどこに流れていっているのだろうか。

吉田川の底を流れて高城川になります。

高城川は鶴田川の延長なのです。

サイホンの考えを取り入れて工事をしたのです。

9. 色塗りした地図をみんなで見よう。

吉田川のみなもとから野蒜の河口までしっかりとぬってあるかな。

吉田川がよくわかるかな。

支流の色塗はどうかな。

吉田川の両岸はみな田んぼです。

下流の田んぼはひろびろとしています。

吉田川が黒川を育ててくれているのです。